

今月のクイズ

平成26年中に起きた追突事故は「直線の道路（一般単路）」と「交差点付近」で多く発生し、追突事故全体の87.3%を占めました。この2つの道路における追突事故の割合を次の中から選んでください。

- ①直線の道路 59.6%：交差点付近 27.7%
- ②直線の道路 49.6%：交差点付近 37.7%
- ③直線の道路 39.6%：交差点付近 47.7%

（答えは裏面）

追突事故を防ぐためには

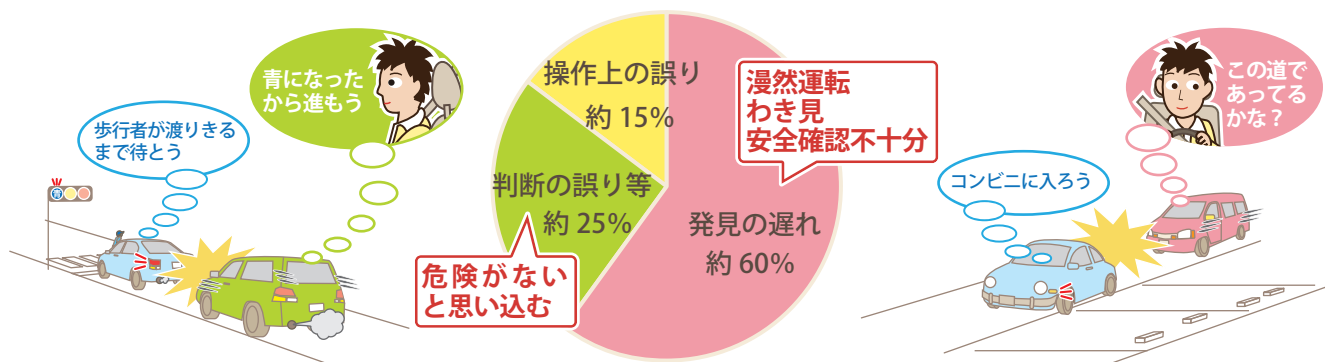
新緑の5月、風が心地よい季節になり、ゴールデンウィークにドライブに出かける方も多いと思います。人気の行楽地では道が混雑し、交通事故が発生しやすくなり、特に追突事故の危険性が高まります。

平成26年中に起きた追突事故は20万7,485件で、交通事故の要因の中で最も多く、全体の36%を占めました。今月は、どのような状況で追突事故が起きてしまうのかを確認し、追突をしない・追突をされない方法を考えましょう。

（出典：警察庁「平成26年中の交通事故の発生状況」より）

油断による「発見の遅れ」や思い込みによる「判断の誤り」が追突につながる

公益財団法人交通事故総合分析センターが平成21～25年に行った、追突した車両ドライバーへのインタビュー結果によると、約8割が「前車の存在を認識したときは、十分な車間距離をとっていた」と答えました。しかし、前車に追突する危険を感じたときになると、約9割が安全に停止できる車間距離を下回っており、減速も行っていないでした。前車との車間距離を十分とっているつもりでいたものの、ハッと気づいたときには前車が迫っており、減速しようにも間に合わず、追突している様子がうかがえます。



図：追突した車両ドライバーの事故要因（平成26年中）

※調査不能を除く「追突された車両」及び追突事故に巻き込まれた負傷者＝11万1,358人

（出典：公益財団法人交通事故総合分析センター 平成27年 第18回研究発表会テーマ論文「追突事故の負傷者数低減」より弊社作成）

平成26年中の追突事故による負傷者のデータをもとに、追突した車両ドライバーの事故要因をみると、「発見の遅れ」が最も多く全体の約60%を占めています（図）。走行中、「前車は同じ速度で走り、急停止することはない」と油断していると、漫然運転やわき見運転、安全確認を怠る運転につながり、前車の動きに注意が向かなくなります。そんなときに、前車がコンビニの駐車場に入ろうと減速したり、前方の事故や渋滞に気づき急停止したりすれば、発見が遅れ追突する危険性があります。

また、「判断の誤り等」も多く、全体の約25%を占めています。渋滞のときに前方の車が動いたり、交差点の信号が青に変わったりすると、「前車も動く」と思い込み「発進しよう」と判断し、追突する危険性があります。

追突しないためには、油断や思い込みをなくし、前車の動きをよく見て正しく判断することが重要です。一方、追突されないためには、急ブレーキを避け、減速して停止することを後続車に知らせる必要があります。



追突事故を防ぐためには



前車の動きに対する「発見の遅れ」や「判断の誤り」により、追突事故を起こさないためには、どのような運転を心がければよいのでしょうか？また、追突されないための運転についても考えてみましょう。

走行しているとき

● 車間距離を十分にとり、前車のブレーキランプが点灯したら、足をブレーキの上に置きましょう

走行中、小動物が飛び出してきたり、前方で事故が起こったりして前車が急停止することがあります。そのときに、前車との車間距離が短かったり、ブレーキに足を運ぶのが遅れたりすれば追突する危険性があります。

車間距離を十分にとり、前車のブレーキランプが点灯したら、足をブレーキの上に置いていつでも踏み込めるようにしましょう。



追突しない

● 夕暮れどきは、早めにヘッドライトを点灯しましょう

夕暮れどきは、周囲が徐々に暗くなるのに比例して視覚機能も低下し、追突事故を起こしやすくなります。

早めにヘッドライトを点灯し、良好な視界を確保するとともに、前車へ自車の存在を知らせましょう。また、テールランプも早めに点灯し、後続車や周囲の車両へ自車の存在を知らせましょう。



追突しない

追突されない

停止するとき

● 早めにブレーキを軽く踏み、後続車に注意を促しましょう

後続車からの追突を避けるためには、自車が停止することを知らせて注意を促す必要があります。早めにブレーキを軽く踏み、段階的にゆっくりと減速して停止させましょう。また、自車が減速しているのを、後続車が気づいているかどうかにも注意して、観察しましょう。



追突されない

● 前車と十分な車間距離をとって停止しましょう

青信号で「前車が動く」と思い込みブレーキから足を離したとしても、停止時に前車と十分な車間距離をとっていれば、追突するまでの時間ができるので「停まっている」と気づき、停止することが可能になります。また、後続車から追突されても、前に進み出る距離を稼ぐことができ、多重事故を防ぐことが可能になります。

停止時も、前車と十分な車間距離をとりましょう。



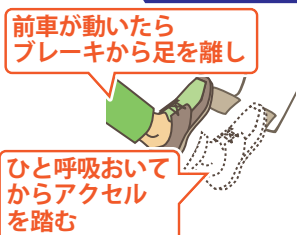
追突しない

発進するとき

● 前車が動き始めるのを確認して、ブレーキから足を離しましょう

信号が青に変わったとき、前車が動いていないのにブレーキから足を離していることがありますか？オートマチック車の場合、ギアがドライブのままブレーキから足を離せば、ユルユルと前進し追突する危険性があります。さらに、「青になったから前車も動くはずだ」と思い込んでアクセルを踏み始めれば、衝撃が強くなります。

信号が青になり発進するときは、前車が動き始めるのを確認してブレーキから足を離し、ひと呼吸おいてからアクセルを踏み始めましょう。



追突しない

追突事故を防ぐためには、十分な車間距離をとって、前車の動きをよく見て運転しましょう。停まるときは、早めに後続車に注意を促しましょう。

今月のクイズの答え

①直線の道路 59.6%：交差点付近 27.7%（出典：公益財団法人 交通事故総合分析センター「平成26年版 交通事故統計年報」より）

ご用命・ご相談は・・・

株式会社アサヒ ファシリティズ 東京都江東区南砂2丁目5番14号

北海道	011-231-3332	大阪	06-6201-8663
東北	022-211-1631	広島	082-222-7500
東京	03-5683-1184	九州	092-441-3768
名古屋	052-231-8824		



東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内 1-2-1

TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590

URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課 建設産業営業部 営業第二課

© 2016 東京海上日動火災保険株式会社